



# いばらき

## 農業委員会だより

平成26年1月  
(創刊昭和50年11月)

### 第154号

編集・発行

茨木市農業委員会  
茨木市駅前三丁目8番13号



# 謹賀新年

のごあいさつ

## 年頭のごあいさつ



茨木市農業委員会  
会長 大上 眞明

平成26年の新春を、皆様にはご家族お揃いでお健やかに迎えたいこととお喜び申し上げます。旧年中は農業委員会活動に深いご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。

さて、昨年は、10月に台風26号が伊豆大島を襲い、甚大な土石流災害を起すなど、各地で台風による被害が発生しました。本市においても、台風18号による農作物の被害や農地、道水路の崩落など多大な影響があり、改めて自然災害の脅威を思い知らされた1年でもありました。

わが国農業を取り巻く環境は、環太平洋パートナーシップ(TPP)協定交渉の進展に伴い、米の生産調整の5年後の廃止など、大きく変わろうとしています。生産調整が廃止されると、米が過剰に供給される可能性があり、米価に影響することが予想されますが、本市のような都市近郊農業においてどのような影響があるかは、不透明なところであり、今後の国等の動向を注視していく必要があります。

本市の農業は、農業従事者の高齢化や、兼業農家が転勤等で農業がでなくなるとの理由により、休耕地も増えてきております。また、各農家が所有している農機具も維持更新するだけで多額の費用がかかるなど、諸課題を解決するため、地域の農家が協同して農地を守る「集落営農」も検討する時期に来ているのではないかと考えています。

今後、緑のある地域の景観や防災などの環境も視野に、農業をいかに再構築していくか、農家だけでなく、地域の住民をも巻き込んだ議論をしていかなければならないでしょう。本年7月は、公選委員の改選期であります。農業を取り巻く情勢が厳しさを増す中、これからの本市農業の発展と農業委員会の更なる活性化に向け、熱意と行動力のある青年・女性委員等の拡充も望まれます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈りし、新年のごあいさついたします。

### 第39回

## 茨木市農業祭

### 竹田市も初参加、家族連れで賑わう

第39回農業祭が、平成25年11月16日(土)、17日(日)の2日間、「都市と農村のふれあいを求めて」をテーマに、市役所前北・南グラウンドで開催されました。

会場では、市内農家が丹精込めて栽培した野菜や果実等が販売され、新鮮な農産物を買求める家族連れなどで賑わいました。

また、歴史文化姉妹都市となった

大分県竹田市が、特産物であるカボス、トマト等の展示、販売を行い、小豆島町ともども姉妹都市コーナーは盛況となりました。

農林産物品評会には、野菜、果実、花き等878点の出品があり、特賞19点、優秀賞30点、努力賞14点が入賞しました。なお、特賞に入賞された方々は、左表のとおりです。

### 農林産物品評会特賞入賞者一覧

(敬称略)

茨木市長賞	久保 等
茨木市議会議長賞	小阪 貴美子
大阪府知事賞	北浦 春雄
茨木市農業委員会会長賞	才脇 作
茨木市農業協同組合長賞	増田 信雄
茨木市農業振興団体連合会会長賞	久角 隆雄
茨木市農協実行組合長会連絡協議会会長賞	岸本 清隆
大阪府森林組合茨木市林業推進協議会会長賞	中西 謙
大阪府北部農業共済組合長賞	下峰 正一
大阪府農業会議会長賞	西島 悦子
大阪府農業協同組合中央会会長賞	小林 治夫
全国農業協同組合連合会大阪府本部長賞	大神 弘
大阪府信用農業協同組合連合会会長賞	中内 稔
全国共済農業協同組合連合会大阪府本部長賞	岡入 ツルエ
大阪府農業共済組合連合会会長賞	葛馬 正一
三島地区農業委員会連合会会長賞	西島 二郎
大阪府花き園芸連合会会長賞	田仲 久子
大阪府森林組合長賞	中野 稔
大阪エコ農産物「いばらきっ子」賞	下村 五壽男

### 平成26年7月は農業委員の改選期 選挙人名簿の登録申請を忘れずに

農業委員会委員選挙人名簿は、農業委員の選挙が行われる際、有権者の確認等を行う大切な名簿です。この名簿に登録されていない場合は、本来、選挙権がある方でも投票ができなくなります。「選挙人名簿登録申請書」を必ず提出してください。

- 提出期限 1月10日(金)
- 名簿登録要件 次の要件の全てを満たす方
  - ① 平成26年1月1日現在、茨木市に住所を有する方
  - ② 平成6年4月1日以前に生まれた方
  - ③ 10アール以上の農地につき耕作の業務を営む方、および同居の親族またはその配偶者で年間60日以上耕作に従事する方

【問合せ先】農業委員会事務局 Tel 620-1677



品評会出品物展示



開会挨拶



木工コーナー・フワフワ

農業委員による農地相談

# 事務局体制の強化について市に要請

平成21年度の農地法改正により、農地転用規制や遊休農地対策の強化など、農業委員会が担う役割が増加しています。

今後、農地中間管理機構の創設や農業委員会が整備する農地基本台帳の法定化、遊休農地対策への対応など、農地制度の適正な執行を担う農業委員会の業務の増加が予測されることから、委員会の体制整備は必至

となっております。

以上のことから、現在、農業委員会系統組織は全力を挙げて、国に対する要望活動を始め、様々な運動を展開しています。

## 大阪府農業委員大会開催される 農地制度の今日的意義と役割を踏まえた 農業委員会活動の充実に向けて

10月30日、大阪国際交流センターにおいて、平成25年度大阪府農業委員大会が開催され、茨木市農業委員を含む府内農業委員など約700人が参加しました。

第1部では、冒頭、大阪府農業会議井川会長の挨拶があり、多国間で進められているTPP交渉について、米、麦などの重要五品目（関税分類上は細目586品目）の自由化、関税撤廃の影響を検討するとの政府の動きに対し、「重要五品目の聖域が確保されない場合は脱退も辞さない」としていた従来の決議を初志貫徹する

今回、その一環として各委員会がこぞつてそれぞれの首長に対し、事務局体制の強化に関する要請活動を行うこととなり、本委員会では去る11月25日、大上会長、松澤副会長により本市長に、要請書を手交いたしました。

その際、楚和副市長同席のもと、趣旨並びに実情を交え懇談を行い、対応について強く要請を行いました。

よう求めるとともに、米の生産調整の廃止論議等が農業生産現場の不安を高めていることから、関係機関と連携し、毅然とした対応をしていくと述べられました。

また、都市農業を守り、意欲ある担い手が農業を持続していくために、都市農地の保全、活性化を目指した諸制度の拡充、整備に向けた取り組みを続け、大阪の実態に即した制度の実現を要望していく、農業委員会については、果たすべき社会的使命期待される役割について、農業委員自らが共通認識を持ち、その実現に

向け、農業委員会活動の実践に邁進すべきであると強調されました。

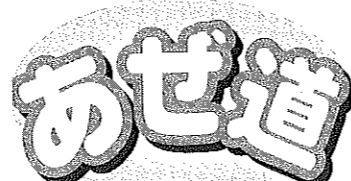
続いて、来賓の祝辞・紹介、農業委員等の永年在任表彰、なにわ農業賞表彰等が行われ、その後、議事に入りしました。

議事では、「大阪農業の活性化に関する要請決議」、「第2次「都市農業リフレッシュ運動」に基づく農業委員活動の充実に関する申し合わせ決議」の議案説明があり、いずれの議案も採択されました。また、「農地制度及び農業委員制度の堅持に関する緊急要請」が緊急提案され、満場一致で採択されました。

第2部では、「農地制度の今日的意義と農業委員の役割」をテーマに、大妻女子大学教授の田代洋一氏が講演を行いました。



開会挨拶



## 都市化の中で



農業委員  
太田 秀 男

茨木市の中心を西東にぬける名神高速道路の北側、耳原に私の住居があります。大字耳原は高速道路の南側にも南耳原として存在します。

しか残っていません。その3.5haほどの田んぼが、何処にあるのやら家の陰で判りにくい状態で、そのような中で、近道になるあぜ道は沢山の人が通って草も生えず道は崩れるという状況で、米作りや野菜作りには環境が大変悪くなっています。その様な環境でも昔から篤農家が多いこの地区では、農家は耳原地区以外に自作も含め、頑張つて米作り・野菜作りに励んでおられます。野菜は市場出荷や、JA茨木市農産物直売所「みしま館」へ出荷されています。

ひるがえって、私は20歳の時から花き生産に就き、50年近く経ちます。当初は大変で、生産経営に苦しみましたが、すぐに先輩・大先輩また良い仲間にも恵まれ、その後昭和45年には日本万国博覧会があり、右肩上がりの景気で花がよく売れた時期もあって、お陰で長い間これで生計を

立てられました。現在は景気が悪く作る花もよく売れない状況ですが、経費の節減等でのいできています。

ここに、茨木市の花き生産者の組合の歴史また状況を知ってもらいたいと思います。昭和30年代になって茨木市と近隣村との合併で現在のように市域が広がり、花き生産産地が寄り合い、市単位の組織（茨木市花き園芸協同組合）が作られました。そのメンバーは、切り花・観葉植物（豊川地区）・花木（見山地区）・花壇苗（三島地区）でした。

昭和30年代半ばには、森林組合との共催で市役所前のグラウンドで春・秋・秋2回の即売会が始まり、大変盛況で長く続いていましたが、植木類の不況で、組合共催の植木と花の即売会は終了しました。

今は、茨木市花き園芸振興会と名称変更して活動しています。花壇苗生産は見山地区が中心で、出荷は市場出荷と大阪府花の文化園や、市の緑化事業「花と緑の街作り」の苗を受注生産しています。切り花生産は直売所向け中心の生産で、色々な花をそれぞれが研究し試行錯誤しながら良品生産に心がけているところです。

### 農業委員短信

太田秀男氏が、公益社団法人大日本農会の平成25年度農事功績表彰者として、「緑白綬有功賞」を受賞されました。